

1. 園の教育方針

幼児の人格形成をめざし、自他の敬愛と協力によって強く正しく明るくをモットーとし、集団生活における自主的精神に満ちた心身ともに健康 な幼児の育成に貢献する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

幼稚園教育要領が改訂されたことを踏まえ、幼稚園教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教育の質を高めるとともに、教育内容の改善に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教育方針・指導計画・記録	
①幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育方針を理解し、目標に従ったものにしていく。	自園の教育方針や教育要領の理解に努め、教育課程の編成にあたっている。
②子供の発達の姿に配慮した指導計画とする。	幼児期の特徴を理解し、担任だけでなく、子供を多面的にとらえる機会や話し合いの場を設けている。
③定期的に指導計画の評価を行い、見直しを行う。	指導計画を評価、反省すると共に、他の教員と多面的に見直している。
④個々の子供の状況を記録し、話しあう機会を定期的に行う。	個々の子供の記録があり、担任だけでなく、場面に応じた子供の情報交換を行っている。
2. 健康	
①子供が伸び伸びと行動し、充実感が味わえるように工夫する。	子供が安定感を持って行動できるように、教員は見守りながら援助を行っている。
②健康や安全な生活に対して、必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫する。	基本的な生活習慣の獲得を促している。
3. 人間関係	

①子供が自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行う。	子供の気持ちや意図をくみ取り、自分で考え、行動できる援助を行っている。
②相手の思いや気持ちに気付いていけるような援助や機会を設ける。	一人ひとりの子供の良さを認め、教員が客観的に子供を見る目を養うように努めている。
③園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり、機会を設ける。	社会的ルールや善悪の判断を身につけられるようにし、当番活動や異年齢児との交流を行っている。
④高齢者や地域の人等と関わり、愛情や信頼感を持てるように工夫する。	近隣の方と挨拶をしたり、園に招待したり、園外保育で様々な地域に出かける等、交流を深めている。
4. 環境	
①身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心が持てるように工夫する。	園内の自然環境を整備し、季節感のある素材を保育に活用したり、室内環境を工夫している。
②遊びや生活の中で数量や、文字、図形などに関心を持つ工夫をする。	時計、カレンダー、あいうえお表等配置したり、標識、カルタ、文字カード、数字カード等に触れる機会をつくっている。
③子供が様々な異文化を受け入れる配慮や環境を整備する。	外国の絵本を取り入れたり、国旗に触れたり、日本以外の国々について知る工夫をしている。
5. 言葉	
①子供が自分なりに表現した気持ちを受け止める。	子供の問いかけを後回しにせず、表情やスキンシップ等を通して、心情を読み取っている。
②子供達自身が友達同士で話し合えるように工夫する。	グループ活動や当番活動など、子供達が自主的に進めていける機会を設けたり、自分から考えて行動できるように、教員は見守っている。
	来園者に対しても、教員が率先して挨拶をし、子供達も進んで行えるようにしている。
④絵本や紙芝居、素話等を積極的に取り入れる。	行事や季節、年齢に応じて選び、落ち着いて、ゆったりした時間を設けている。

6. 表現	
①子供の表現しようとする意欲を受け止め、表現を楽しむことができるように配慮する。	子供がイメージして描いたり、製作しようとしているものを受け止め、共感しながら、必要な材料を工夫し、準備している。
②子供の興味や関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。	新旧の童謡を歌ったり、手遊び、リトミック、フォークダンスをしたり、様々な楽器に触れ、表現する楽しさを味わえるようにしている。
7. 研修	
①園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価を行い、保育の資質向上に努める。	教員間のコミュニケーションをよくとり、他の教員の助言や保育技術を参考にしている。
②積極的に研修会等に参加し保育者としての資質向上を目指す。	自主的に研修会や講習会に参加したり、特技を身につける為の練習や講習を受けている。
	保育技術を高める専門誌を読む等、保育に生かしている。
8. 家庭との連携	
①子供の様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫する。	園だより、クラスだよりで伝えたり、参観や懇談会等で保育内容を理解してもらえるようにしている。
②幼稚園と家庭が子供の望ましい発達を促すために連携をとる。	保護者の相談や質問には、丁寧に対応し、専門家や専門機関へ相談できる体制がある。
9. 安全・衛生管理	
①室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行う。	遊具・設備備品等、定期的に点検を行い、改善に努めている。
②緊急事態に対して、敏速に対応できるようにしている。	避難・地震・防犯・防災・Jアラート・引き渡し・バス車内訓練を定期的に行い、避難の仕方は、様々な場面を想定しながら行っている。

	非常ブザーや消火器の場所を把握し、使い方を理解している。
10. 学級運営	
①保育室は整理・整頓が行き届き、安全に配慮した環境にする。	子供自身も、自分から整理整頓ができるように、教員が見本となって環境整備を行っている。
②個々の子供の心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をする。	常に視診を行いながら、子供の状況を把握し、アレルギー疾患等、個別な配慮をしている。
③指導計画を振り返り、評価・反省を行うと共に明日への保育に生かす。	日誌等で記録を取りながら、毎日振り返り、明日への保育へ生かせるようにしている。
	自己点検だけでなく、教員間で確認をしている。

4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通理解をし、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができた。さらに実践することで、教育の質を高めるとともに、教育内容の改善に取り組むことができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己評価の課題や問題点の改善について	子どもの様子を振り返り、他の保育者と協力しながら、子どもへの関わり方を進めていく。

6. 学校関係者の評価

教職員が学校評価の主旨を理解し、自己点検、自己評価に取り組んでいる。また、子供たちが安心、安全に選べる環境になるように取り組んでいる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

